

No.	ご質問されたい内容があれば簡潔にお書き下さい	分類	回答案
1	プログラム受講者の選抜方法についてご教示ください。	A	選定基準と申請要件等 ①選定基準：経験年数、専門性、一仕事以上を終えた仕事経験（書類⇒面接審査） ②1.5倍～2倍と想定 ③基本コースについては有資格者である必要はない。専門コースは、専門コース毎の条件があるので要確認のこと。
3	選定基準や受験倍率などが知りたいです。どうぞよろしく願いいたします。	A	
7	特別な資格を持っていないが問題ないか？	A	
16	選抜されるためには、どの程度のキャリアやスキルが必要となるのか。その選考基準など。	A	
2	出身学部は問うかどうか	B	出身学部（専門） 出身学部は問わない。第1期生は多様な学部、大学院出身者がいた。例：法学部、心理学部、工学部、経済学部、経営学部、文学部、看護学部
4	選考基準やコースごとの特性を知りたいです	C	基本コースの受講スケジュール等の学びについて ①基本コースの年間スケジュールは配付資料の2021年度実績をご確認頂きたい。平日18時以降、土曜日、場合によっては日曜日もあります。 ②授業時間として概ね80時間（事前学習のオンデマンド型動画視聴を含む）、これにレポート課題、実務領域診断カルテの振り返りフィードバック、読書会（任意参加）があります。 ③対面が必修となるのは、初回講義＆多職種連携PBL演習です。研究指導学習における検索方法等、データベースの制約で大学でのみアクセス可能なものがあります。 ④第1期生の方10名は、仕事と両立されて受講されていました。専門コース（経営実務）に進んだ方もいて、全員、夜間と週末を活用した受講で両立されています。ただし、心理カウンセリング、スポーツ実務の各専門コースは、日中の開講となりますので、仕事との調整が必要になるとお考えください。 ⑤23年1月～3月は、専門コースの経営実務コースを受講をされたという前提でいえば、2月初旬まで実習があるとお考えください。また、減災・医療コースは2月～3月に多職種連携PBL演習で被災地調査が計画されています。
5	年間スケジュール。週末と平日のコマがどの程度の割合で生まれ、課題を含めてどの程度の時間が必要となるのか。特に、23年1～3月の予定を詳しく知りたい。	C	
9	講座の特徴など教えてください。	C	
11	仕事との両立は可能でしょうか。	C	
13	カリキュラム全体の概要や総費用、実際の受講形態（仕事をしながら受講が可能か？負担はどの程度か？）	C	
15	受講必須となる対面講義があれば教えてください。できれば開講日時が分かると仕事との調整がしやすいです。	C	
6	過去の受講者の受講後の職務内容の変化など。	D	修了後の受講生の動向 基本コース1期生でいえば、所属企業で仕事を継続されている方がほとんどです。キャリア形成、人材育成などの方法論を生かし、仕事の進め方が変化したとの回答が多いです。また、2022年4月より専任大学教員に転身される方もおいでです。
12	海外出張が多く、遠隔以外で出席が必要な場合に出れない可能性が高い。その場合、次年度の持ち越すことが可能か否か	E	次年度繰り越しの可否 残念ながら次年度に持ち越すことはできません。2022年度基本コースであれば、4月～9月で所定の科目を履修して頂くことが必須です。対面授業については、直接参加が条件となります。
17	社会構想大学院大学の実務家教員養成講座との違いを教えてください。	F	社会情報大学院大学プログラムとの違い 同じ補助事業ですので、教育力を高める趣旨は同じ履修証明プログラムです。その一方学習の範囲でいえば、TEEPの方が意識的に幅広くなっています。具体的には、ソーシャルデザイン科目、多職種連携PBL演習などのアクティブラーニングが充実しています。加えて、実務家教員として働くために実務経験のアウトプット力を高めつつ、理想とする実務家教員へのキャリア開発をサポートするセッションがTEEPのオリジナルです。
18	出願の具体的な方法など	G	申請方法 基本コースでいえば、名古屋市立大学大学院人間文化研究科の科目等履修生の応募手続きをして頂きます。